

## 平成22年度 第2回男女共同参画を進めるパートナーシップ委員会 会議録

- 1 開催日時 平成22年11月24日(水) 午前10時～11時40分
- 2 開催場所 市役所別館 第1委員会室
- 3 出席者 委員12人(2人欠席)、市長、事務局3人
- 4 傍聴者 市行政経営改革課1名
- 5 議事等

事務局 ただ今から平成22年度の第2回長浜市男女共同参画を進めるパートナーシップ委員会を開催いたします。本日は市長も加わり進めていきたいと考えています。

なお、本委員会は、「附属機関等の会議の公開等に関する要綱」により公開させていただきます。会議内容は録音させていただきますのでご了承ください。それでは委員長に進行をお任せします。

委員長 今日はお忙しい中市長にもご参加いただきありがとうございます。貴重な時間ですので本題に入ります。各委員から男女共同参画についての普段の思い・意見などを直接市長に聞いていただく機会ですので、順にお話いただきたいと思います。

委員 私は長浜市の女性の悩み相談のカウンセラーを担当して8年目になります。合併により相談件数が増え、また10代から80代までと幅広い年齢層の方から相談を受けています。相談内容は主に家族関係が多く、子育て、職場での人間関係、親子関係など幅広い内容です。DV や経済的な問題の相談もあります。

どこにも相談することができなくて、離婚するしかないと思われる方も多く、ここでしか話せないという方もよく伺います。私としてはうれしいですが、もっと地域の中で助け合いができれば、と思います。多世代の方がお互いに教育・支援していくような取組が奈良県にあります。

委員 私が会議に参加するきっかけは、図書館で父親限定の本の読み聞かせ会に参加し、第2回目は読む側の立場で講演会に参加させていただいたことです。イクメンという言葉が国から出されているように男性の子育てに対する意識も変わってきていますが、周りでは「男が子育てするなんて恥ずかしくていけない。」という人もいます。

子どもに本を読み聞かせてあげるなど、子どもとのコミュニケーションはとても重要であると感じますので、これからの若い世代の男性が恥ずかしがらずに子育てに取り組んでもらえるような施策を進めていただきたいと思います。

委員 先日も子宮頸がんのワクチンの件でお世話になりました。健康診断の場合、クーポン券を配られているので行きつけになります。知り合いの人もせっかくもらったのでと検診に行かれたら初期の症状を発見できた、と喜ばれていました。いいことだと思いますが、クーポンをいただいても子どもづれで健康診断に行きにくい方もいます。土日は家族のふれあいを重視したいため検診に行くのが難しいので、年に何回かいいので平日に託児のある健康診断を実施していただければと思います。そして、心おきなく健康診断を受けられたらなと思います。専業主婦などは職場で受診できる機会がないので、よろしく願います。

委員 私は三年前に会社を定年し、地域事業の安全教育、しょうがいを持ったお子さんの支援活動などを行う「男輝会」という会を立ち上げ活動しております。この会は平成20

年度に市の退職者シニアのデビューで仲間作り講座を受講したメンバーが、これで終わるのはもったいない、なにか地域でやろうということで始まりました。

私は、高齢者の地域活動・やりがい作り・生きがい作りといった活動の支援をお願いしたいと思います。市の審議会等では女性の参画が低いといわれていますが、実際私たちがボランティア活動をしていると、女性の方が多く社会活動をされる一方、男性は、自分の趣味に興じた活動しか行っておられない方が多いと感じます。高齢者は“金の卵”といわれている中、経験・知識を有効活用できないかと思えます。

これからは、行政だけで出来なければボランティアの仲間たちと協働でやっていく仕組みづくりが大切だと思います。また、担当者がやめたら組織もなくなってしまうという状況ではだめなので、地域作りのプロセスを精通している方を育ててもらいたいと思います。そして、ボランティア団体どうしの横のつながりができるようにサポートしてもらえればと思います。

委員 私は小さな子どもたちから高齢者の方までを対象としたお話し会・読み聞かせの会を続けて36年になります。その中で、言葉によって心を表現し、お互いの違いを理解し合うといった、人間を育てることを基本として活動しています。そうした活動の中から私たちは町づくりをお手伝いするようになり、活動を続ける中で男の人がこの頃どんどん入って来てくれました。

そういった中で、もっとも大切なのは自主性を育てることで、市に責任を振るのではなく、自分たちで自らのことを決めていく姿勢を持ち貫くことが大切だと思います。我々が市長さんになにをしてほしいかと考えると、今の時代お互いへの感謝や評価が少ないので、出てきていただいて、「よくやってるね」とお声がけいただくなどなど精神的な支援をしていただければと思います。

委員 私はずっとこの地で住み続けられるように15・6人のグループで、福祉、高齢者問題、介護保険の勉強などを続け、現在は講座を企画し実践しています。私はこれから高齢者問題は女性問題だと思います。女性の方が平均寿命が長いこともありますし、特に長浜は農家の方が多く、年金収入でいうと国民年金だけの方が多くと思いますので、これからは女性の貧困問題、特に高齢者の貧困が増えると思います。

また、私は若者の女性の姿を見て、結婚・子育てで仕事をやめて収入が減っている方の支援をできればいいなと思っています。私にできること、ちょっとがんばればできるかもしれないと考えているのですが、ぜひ小さな商店などでみるみんマークを取得できればいいなと思っています。来年はぜひ行動したいと考えています。

委員 私は夫の転勤に伴い30年ほど前に長浜に帰ってきました。戻ってきた時は地域社会になじみがなかったので、あえて仲間作りのためにいろんなグループや組織の中に積極的に入って行き、その中で男女共同参画にも関わって来ました。

今年、市内自治会の中で女性の自治会長は1名だけと聞いています。男女共同参画だから、といきなり女性の自治会長をもっと増やそう、と単純にはいかないと思います。皆さんもご存知のとおり、長浜市内の婦人会の連合組織はなくなりましたが、自治会活動のなかで女性の力が必要だということで、現実的には部分的に参加している機会は沢山あります。

そう考えて、自治会組織の中で、女性部会などの形で最初から参画する組織が欲しいとずっと考えています。自治会活動の中にもっと女性が参画できる仕組みづくりができればと思っています。

委員 私は県立の男女共同参画センターの前身、婦人センターができた時代から女性問

題に関わっています。平成5年からは男女共同参画推進協議会の事務局をしており今は理事を務めています。ずっと勉強してきた中で、男女共同参画意識は子どもの頃から身につけておくことが大切だと考えています。共同参画という理由からだけではなく、相手を尊敬する、大事にするといった気持ちを育てないとだめだと思っているからです。私の周りでも数年前は子どもたちとの挨拶などお互いに声をかけていましたが、今は、だまって通り過ぎる子どもたちが多状態になってしまいました。

もう一つ、審議会の資料を見ると、防災関係の審議会の女性委員は0人です。家庭での防災というと、どちらかといえば女性が「火を出さない」と中心となって意識しており、こういった女性の立場・視点は大切だと思いますので、女性の委員は0人ではなくてせめて三分の一に、そして将来的にはフィフティフィフティにしていきたいと思っています。

委員 私は、男女共同参画を進めるには、まず家庭、職場、そして地域からと考えています。私の住む地域は、かつては浜ちりめんが有名でしたが、ありとあらゆる職業の方々が仕事をしながら暮らしており大変住みやすい活気のある町です。最近では高齢化が進み、限界集落ともいわれていますが、およそ550世帯1500人の方々が暮らしています。

5年前に地域でまちづくり協議会を立ち上げ活動していますが、今年は10月の市の防災訓練にあわせ各町が協力して合同防災訓練を実施しました。大地震を想定し、各自治会の避難場所、点呼、避難場所への誘導など、男女に関わらず参加者全員が一体となり防災意識を高める重要な機会とできました。今後は、まちづくり協議会の役員に女性の方にも加わっていただき、さらなる発展をしていきたいと思っています。

委員 私には重度のしょうがいを持つ5歳の娘がいます。その関係で、この春に長浜市の重身の子どものための親子の会を発足し活動しています。その中で、以前から医療や福祉の現場を沢山見てきましたが、小児科病棟や療養の現場はほとんどが女性中心であることに気がきました。その方にもやさしく接していただいているんですが、男性の介護士さんや先生方がいてくださると、子どもたちにとっても存在価値が大きいと感じることがあります。職場としても患者としても、また考え方や発想などの面からも男性の存在が大事だと感じます。

また、地域の保育園・幼稚園も女性の職場といったイメージがありますが、最近知人の男性が就職希望を出されたところ「男性の保育士はいりません」と断られたケースがありました。人間性ややる気を見ずに性別の違いからダメといわれたことに、私も疑問を感じます。ぜひ、職員採用や人事異動の際には性別が偏らないような配慮がされて、子どもが育つ中で男女の隔てのない、生き生きとした長浜市となればと思います。

委員長 ここまで、各委員から市への感想・意見をいただきました。ここで、市長からご感想をいただければと思います。

市長 改めまして市長の藤井と申します。

さて、長浜はこの4年間で合併を積み重ね、新しい歴史の1ページが開かれたところ です。人口も大津市に告ぐ2番目、面積も琵琶湖とほぼ同じ面積といった県の六分の一を占める広大な市域となりました。3つ目の大きな特徴は文化財です。市内には神社・仏閣などがいたるところに宝石のごとくきらめいています。歴史の重みと文化の香りは日本一という自負心を持ち、12万市民の皆さんが幸せになれる長浜市としたいと思っています。

長浜市の市政運営の柱は、まずはなによりも「オープンで開かれた市政」です。二つ目は「公平・平等で格差のない市政」。三つ目は市民の皆さんが参加する「市民目線化

の重視」。この3つの視点で市政を運営させていただくことを原則にしています。男女共同参画についても、男性も女性もお互いがそれぞれの特性を活かして、お互いが支え合い絆を深めて社会を支えていくことが大切だと思っています。

委員の皆さんそれぞれも地域や職場で活躍されている方ばかりです。どうか大きく議論いただき、共同参画を推進していただきたいと思います。本日は、それぞれの目線での貴重なご意見をいただきありがとうございます。

委員長 それでは引き続き委員からの意見をお願いします。

委員 現在のような不況の中では、行政が早く活性化しないとだめだと思います。民間だけが一生懸命がんばっていてもおかしいことで、この委員会のように全ての市役所の委員会が活性化していけば市役所全体が活性化していきます。市役所が活性化すれば、民間も一緒にコラボレーションさせていただいて「やろう」という気になります。どういうことかといいますと、民間は民間で一所懸命コラボレーションしているのですが、行政の横のつながりのコラボレーションがないのが一点。二点目に、我々民間とのコラボレーションもありません。このことは行政職そのものの思考が固まっていることに気がついていないのではないのでしょうか。最後に、行政職員は自らの給料をどのような形で市政に反映させるのか認識がやや薄いと感じます。このことを行政の中で提案いただいて、全行政マン一人ひとりが活性化するように、市長に提案させていただきます。

委員長 それではもうひとつの議題「男女共同参画の視点での市民の市政参画について」に移りたいと思います。その前に、私からも自己紹介させていただきますと、私は県の男女共同参画審議会の委員もしております。滋賀県全体の取組として徐々に成果が上がっていると思うのですが、審議会の中で湖北地域の現状を聞き湖北はなかなか成果が見えてこないと指摘されることがあります。そういった状況ですので、市長が重点施策の中に「男女共同参画の推進」を挙げられたことに感動しているところです。ぜひ、湖北は遅れているとの県の感覚を払拭していただきたいと思います。

先ほどの委員の皆さんからの意見・感想の中で、「できることからやろう」というご意見がありました。これも市長の市民の市政参画基本方針に「女性の市政参画」とあります。委員会としても協力したいと考えますので、女性の市政参画についての思いを市長にお伺いしたいと思います。よろしくをお願いします。

市長 私は5年前、縁があって小泉内閣の時代に1期衆議院議員を務めました。その時、一緒に活動した方の中に猪口邦子さんおられました。猪口さんは内閣府の男女共同参画担当大臣を拝命され、女性の登用をどのようにしていくか、共同参画社会をどのように構築していくか尽力されていきました。また、上智大学の教授をしておられ、国内では男女共同参画に対する見識が高い方で、私も相当教えを受けました。簡単に表現すると猪口さんは、女性は3つの「ひ」を克服しないとイケないと言われました。一つは「ひるむな」、二つ目は「ひがむな」、三つ目は「人の足をひっぱるな」。これを克服すれば女性はもっと世に出られる、との言葉が印象に残っています。私も世の中は、特に戦後は男性社会が続いて、女性が社会に出るには逆境があったことは認識しています。今は世の中も変わってきました、女性の方も小さな状況で判断するのではなくて、大状況の中で判断していく。そしてしっかり活動していく。これを継続していくことによって、民主主義の希望を育てることに広がっていくんだろうと思います。

また、私の湖北の捉え方は保守の風土が強いところ、また、朝仏壇に手を合わせ家族の健康を祈るなど宗教心が強いところだと思います。それらは女性が支えている部分が多いと思っています。女性は地域活動の大きな担い手なんです。自治会など

社会の活動ではほとんど出て来られないのは、保守風土の厚いところから来ているのかなと思います。私がマニフェストで男女共同参画・女性の市政参画を唱えたのは、まず男女共同参画は私たちが意識を変えることが大事だとの思いからです。実際の担い手は女性の方が多いわけですから、女性も第一線に出てこられ、地域の自治会長、連合会長までも引き受けるほどの意識の高まりを、市としても私も目指してやりたいと思います。

委員長 ありがとうございます。市長のお話を聞かれて、皆さんのご意見はいかがですか。

委員 いきなり女性の自治会長とまでいかなくても、まず、自治会組織の中でなにかの形で女性が関わることができればと思います。

委員 市長がおっしゃった猪口大臣のように、長浜市でも女性の方に旗振り役の場所を作っていたきたいと思います。また、成り行き的な施策でなく、意識と行動を変える活動をぜひしていただきたいと思います。もう一つは座ぶとん会議で、女性対象の座ぶとん会議といった、女性が参加しやすい場を広げる活動をしていただきたいと思います。

市長 座ぶとん会議ですが、市民の皆さんからいろんな意見を聞こう、聞くだけではなく市のPRをしようとの思いで実施しています。一昨日も高月に行きましたが20名ほどのお集まりの中で、女性も3名の参加がありました。また、うれしかったことにそれぞれからご発言いただきました。数は少ないですが、着々とがんばっていただいているなど感じました。ただ、公の会議となると地域の特性もありますが、確かに女性の数は少ないですね。

委員 私も、女性自身に自覚ができていない面もあるかとは思いますが。

委員 私は“男女共同参画”と考えたときに、皆さんは女性をどうするかと考えておられますが、私は男性たちをどうサポートするかをいつも考えています。私は国内外各地で暮らしたことがあります。そこと比べ「湖北の女性はすごいな」というのが実感です。ですので、“ものの見方の角度の違い”ではないかと思っています。この委員会が女性の立場をどのように上げるかという会ならそれでいいと思いますが、男女共同参画を考える場であるなら、私はもっと男性を守って欲しいと思います。女性ばかりが不幸だ、という視点ばかりではなく、男女関係なく、各人がその状況の中で知恵をしぼり、一人ひとりが考えていくことに対し、どのようなサポートをするのが大事なのではないのでしょうか。

委員 私は、働く場では女性は認められて来たけれど、まだまだ地域の中では女性は認められていないとずっと実感してきました。だからぜひ、女性は男性の下ではなく、同じ立場で地域を盛り上げることができるようになりたいです。今だに、町の配り物をするのは妻ですが、組長会に行くのは夫という構図が田舎の地域では続いています。そういう社会の中で、男女共同参画の思いを入れていただければ、これから変わっていくと思います。

委員 子どもの頃から育った環境がありますので、ある年齢以上の人は変えなければとの思いを少しは持っていますが、意識を変えることは難しいと思います。子どもの頃から、女性も男性もお互いが思いやりを持って成長していれば、男女共同参画と改めていう必要はないと思うのですが。

委員 基本は「命」というところに置いたほうがいいと思います。自殺するのは男性の方が

断然多いという現実もあります。熾烈なのは、男性の方も熾烈です。だから私は、性別に関係なく「命」をどのように守るか、と考えるようにしています。また、私は人を支えるのが好きですので、町内会の中でお茶をだすのは苦痛ではありません。

なお、私が先ほどから申し上げているのは、こういった視点があってもよいのではないか、という立場で申し上げていますので、そのように受け取っていただければと思います。

委員長 この委員会が、「男女共同参画を進めるパートナーシップ委員会」と名前にもあるように、取り上げるのは女性の問題だけではありません。男性も一人で思い悩み苦しむのではなく、分かち合い支えあう社会が、男女共同参画の思いでこそ実現できるだろう、ということです。先ほども申しあげましたが、私は県の湖北に対する偏見を打ち破りたいと思っています。

個人個人は思いを持っていても、それが伝わらないところが問題ですので、先ほどから市長がおっしゃっている市民の市政参画のために、女性の声をどのように突き上げていくかということが重要だと思います。それが結局は、各審議会の女性比率に表れており、それをいかに増やしていくかが当面の問題だと思います。

委員 各審議会の委員構成は充て職が多く、団体の長となっているとほとんどが男性なので女性の割合が低いのは当然の結果であり、女性の構成比率を上げようと思うと女性を推薦してもらえるように構成メンバーを変えるしかないと思います。また、各委員会も女性比率の問題を認識していないのではないかと思いますので、市長のリーダーシップで積極的に進めてもらいたいと思います。

市長 委員に団体の長を選任するのは事務方としては無難であり、それが形骸化していることにつながっていると感じますので、充て職で依頼することは改めなければいけないと思っています。こういう人材がいるなということを見つけて・・・

委員 自治会長などは近所で活発に活動されている女性をご存知なのではないでしょうか。そういった方から推薦していただければどうでしょうか。

市長 私たちとしては、男女平等だから女性の参画が必要であるとか、人材がいらないから女性の登用が必要だとの発想・声も含めて、長浜市の戦略として女性の市政参画が必要との思いであるということも、ぜひ委員の皆さんにもご理解いただきたいと思います。

委員 女性らしさというような個人の考えは、63億の人口それぞれの物の考え方であり、それを強制することは難しいので、それを変えられるのは基本的には教育しかないと思います。それを30年後のために今しないといけないと思います。市にも数多くの委員会がありますが、形式的に時間になりましたので終了しますではなく、議論ができる委員会にしないといけないと思います。

二つ目に事務方と市長はいわれますが、職員は“行動方”でないといけないと思います。民間と違い、リスクを犯して行動する職員がいないと感じます。市長がいわれる共同参画を早く実行しようと思えば、行政マンはどんどん市井へ飛び込んでいけば、このような委員会が町の中でできるはずで。行政マンから、こんないい人がいますと言ってくるほどに、市長から教育していただかないと30年が50年近く後にもなってしまいます。もらっている給料分の仕事を長浜市に返すという意識を、一人ひとりの職員に持って欲しいと思います。民間意識ではそうでなければ会社がなりたない状況です。

もう一つ、長浜市役所の女の人も仕事を与えればできる人は沢山おられると思うので、市長はもっと女性に仕事を与えてほしいと思います。

事務局 議論も深まっておりますが、市長はここで他の公務がございますので退席させていただきます。

市長 皆さんありがとうございます。私はこういう議論がまず根っここのところで大事であると考えていますので、ここからいただいたご意見を市行政に活かしたいと思います。

大所帯となった長浜市の行政で地域づくりが課題ですが、この地域をよい地域にしようという意識が大事だと思います。他人にいたわりの心をかける人が沢山いる地域、他人の子どもを叱れる大人が沢山いる地域がよい地域であり、活力があって、ここに住んでよかったなと思っただけののだと思います。

また、行政の責任は当然しっかりと果たして参りますが、地域を支えている皆さんがしっかりと行政とスクラムを組んでこそ、地域づくり・町づくりが果たされ、始めて長浜市が成り立つのだと思います。

皆さんにはご苦労をおかけしますが、今後も自由闊達な議論をよろしく願います。本日はどうもありがとうございました。

委員長 皆さんの意見は本日の議論で言い尽くされていると思いますので、附属委員の女性委員比率向上の方策として、事務局でまとめ直し、各委員で内容を確認いただいたうえで、具体的な意見として市長に報告させていただきたいと思います。

(委員の皆さん了承)

事務局 三月改選の審議会が多いので、改選の動きが始まるまでに委員会のご意見を伝えられるよう、進めていきたいと思います。

委員長 それでは本日の会議は終了したいと思います。

事務局 本日は長時間にわたり、活発なご意見をいただき誠にありがとうございました。

今委員会でいただいた意見は、有効に活かしていきたいと思います。それではこれで閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。